

豆狸の寝言

前副会長 故・三原幸二

昨年暮、和歌山の串本に出張いたしました。時間が少しありましたので、向いの大島へ行ってみました。その折、駐車場でミカンを売っているおばあさんからミカンを買いました。

1袋10個入って100円でした。ちょうどポケットに500円玉がありましたので、5袋分けてもらうことにしました。

すると、おばあさんは「これはおまけ」と言って、1袋余分にくれました。

曰く「あんたが今日一番最初のお客さんやから、ぜひとも貰っとくんなはれ」ということでした。

有り難く頂戴いたしました。1袋のミカンが何かしら嬉しい気分にさせてくれました。

渡さなくても済むもの、また、損になることよりも『商』に感謝することの方が大事にしたその心意気を、ミカン1袋100円で売るおばあさんから教えていただきました。

私共が最近忘れかけていたもの、感謝するということを教えていただきました。

そして、そのミカンがとても甘く、美味しかったことは言うまでもありません。

(おいしいミカン) 2000年執筆

